



ハッピーサポーター 募集中

NPO法人MAKE HAPPYの、定額制会員(月額1000円～)のことです



特典

- メルマガにて活動報告(月1回)
- 年次活動報告書を送付(年1回)

個人 会員

- 月額1,000円～
- ツアー/イベント等にご優待

法人 会員

- 月額3,000円～

ご希望の方には

- HPに社名(リンク)の掲載
- 社内向けに対面にて活動報告

申込方法

- ①インターネット申込み
右記のQRコードから



<https://www.makehappystory.com/sponcer>

- ②事務局へ直接、お電話

0225-85-9067(事務局)

支払方法

- クレジットカード決済
- 口座振替
- 年払い

可能



MAKE HAPPYが目指す、持続可能な開発目標 (SDGs)

当団体は、さまざまな取り組みを行うことで、SDGsの17の目標達成に貢献していきます。



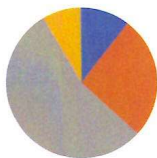
2021年度 会計報告

収支計算書 (2021/1/1 ~ 12/31)

●収入の部

単位(円)

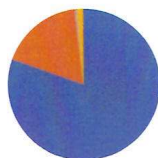
●会費	3,321,776
●寄付	8,272,774
●助成金等	17,290,485
●事業収入	2,589,976
物品販売収入	68,100
その他	42
	31,543,153



●支出の部

単位(円)

●事業費(活動費)	24,363,241
●管理費	5,378,749
●売上原価	103,860
●その他	450,000
	30,295,850



【表紙の絵】世界放浪絵描PROJECT 山口陽介作「ありのままの地球を愛す」

【ストーリー】もしも、きみがぼくに 好きじゃないことをしたとしても、ぼくらはかぞく。いつもきみがそばにいてくれるように、ぼくらがそばにいる。ありのままのきみを愛すると決まっている。



NPO法人MAKE HAPPY

0225-85-9067 / info@makehappystory.com
〒986-0322 宮城県石巻市桃生町給人町141-10 リバーイースト105
<https://www.makehappystory.com/>



代表挨拶



2021年もMAKE HAPPYの活動を応援いただきありがとうございます。また、各プロジェクトへの参加を通して地球と人に元気を届けてくださりありがとうございます。

宮城県石巻市では、東日本大震災の年にスタートした育苗を地元スタッフ4名と共に継続し、2年ぶりに植林ツアーを実施することができました。このプロジェクトは「いのちを守る森の防潮堤づくり」を提唱している宮脇昭先生の植林に対する熱い想いに感動して始めました。7月に訃報を聞いた時、宮脇先生の想いを未来の子供達と世界に繋げる！！という想いがさらに強くなりました。また、海外の植林ツアーはコロナ禍で実現できておりませんが、皆様のご支援で中国内モンゴルに木を植えることができました。

兵庫県丹波市では、間伐の拠点となるシェアビレッジを中心に活動をしました。「日本の森を元気にするシンボル」ツリーハウス製作のためのクラウドファンディングでは、283名の応援をいただき、製作講座参加者13名の方と一緒にツリーハウスの建設がスタートしました。日本の森と人を繋ぎ、喜びという光も届けることができました。

熊本県人吉市では、令和2年7月豪雨災害の被災者に寄り添い、生きる希望、前を向ける希望のための活動ができました。さらに昨年8月の豪雨災害では、佐賀県大町町にご縁をいただき活動をスタートしました。ボランティアさんの募集の制限がかかる中での活動は、復興と笑顔の遅れに繋がります。そんな中でも足を運んでくださる方、地元愛に溢れる現地の方々のおかげで、多義に渡る復興支援活動を実施することができました。

おかげさまで、コロナ禍の制限の中でも、希望の物語を作る1ページを綴ることができました。ありがとうございます。僕たちは植物や動物たちが環境に合わせて順応してきたように、想いと行動を進化させてきました。さらに、活動を通じて持続可能な地球を残し、希望と喜び溢れる物語を作っていきます。今できることを続ければ必ず変わります。2022年も、喜びことを想像し模索し動き創造して参ります。

これからも一緒に現場で活動が出来ると嬉しいです。ぜひ、イベント等にご参加下さい。今年のMAKE HAPPYも何卒応援のほどよろしくお願いいたします。

谷口保 (かごしまん)

目次

- P2 理事長挨拶
- P4 理念目標 / 活動概要 / 活動実績
- P5 足跡 / 活動実績まとめ
- P6 植林
- P8 間伐
- P10 災害復興支援
- P12 サポーター募集 / 収支報告



理念 Philosophy

Let's keep making a story of hope

～私たちは、希望の物語を創り続けるNPOです～

“笑い楽しみながら”地球のことを想い行動すること
“笑い楽しみながら”人のことを想い行動すること

その結果生まれる“希望”は、きっとまた誰かの“希望”に繋がっている

地球に「緑」を、世界に「笑顔」を、社会に「志」を増やすことで
1人ひとりの希望の物語を創り続けていきます



事業概要 Business summary

植林間伐部門《Wonderful World 植林 Festival》
災害復興支援部門《め組JAPAN》
この2部門を柱として活動しています。

2021年活動実績 Business summary

- ◆ 植林プロジェクト（植林間伐部門）
- ◆ 間伐プロジェクト（植林間伐部門）
- ◆ 災害復興支援部門

- 2021/4 ◆ 中国内モンゴル植林トークライブ 3週連続開催
- ◆ 中国植林『my tree』募集
- ◆ 第2回 きらめ樹カホン制作ワークショップ
- ◆ クラウドファンディング「きらめ樹間伐ツリーハウスを作りたい！」
- 2021/5 ◆ きらめ樹間伐@シェアビレッジ
- 2021/6 ◆ ツリーハウス製作講座開始（2021/12まで毎月開催）
- 2021/6 ◆ 上薩摩瀬町仮設公民館運営開始（熊本県人吉市）
- 2021/7 ◆ 第3回 きらめ樹カホン制作ワークショップ
- ◆ きらめ樹キャンプ@岡山和気
- 2021/7 ◆ 夏休みの宿題教室開催（熊本県人吉市）（2021/8まで）
- 2021/8 ◆ 令和3年8月豪雨災害 佐賀県大町町 支援開始
- 2021/8 ◆ 心の復興イベント「植物観察会と種拾い」開催
- 2021/9 ◆ 竹とんぼ作りワークショップ開催（人吉市）
- 2021/10 ◆ 心の復興イベント「植え替え会」「お花植え会」開催
- ◆ 中国植林『my tree』募集
- ◆ 第8回希望の森モリ植林ツアー
- 2021/12 ◆ 心の復興イベント「キムチづくり」開催

足跡 History

- 2004/4 **NGO MAKE THE HEAVEN 設立**
※2018/6 特定非営利活動法人 MAKE HAPPYに改名
- 2004/8 **カンボジア支援プロジェクト発足**
※2016/4から独立し「NPO 法人 GLOBE JUNGLE」として活動を継続
- 2005/4 **植林プロジェクト発足。第1回中国内モンゴル植林ツアー開催**
※2008/4「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」と命名し現在も継続
※中国内モンゴル植林ツアーは現在22回を数える
- 2010/4 **間伐プロジェクト開始**
- 2011/3 **東日本大震災復興支援プロジェクト「め組 JAPAN」発足**
※緊急支援（～2013.3）その後、復興支援にて継続
- 2012/1 **「希望の森モリ大作戦～東北植林～」発足**
※植林を通じて被災地に寄り添い、苗木の育苗と植林ツアーを実施
- 2016/4 **「挑戦プロジェクト」発足**
※2020/1～ たねをまくひと（株）にて活動継続
※サハラ砂漠/ブラジルジャングル/チリ アタカマ砂漠/ペルー イカ砂漠
ニュージーランドのアドベンチャーレース に挑戦
※映画「LIFE TREASURE 2」制作（2019）、第2回希望フェス開催（2019）
- 2016/4 **「感動共有プロジェクト」発足**
※香港でピーチククリーンアップツアー を開催。映画の上映会ツアーを実施
- 2017/9 **活動を伝えるため日本縦断**
※2016～17 天ぶらの廃油で走る天ぶらカーで、47都道府県を周り活動を伝える
※2017/9～11 北海道から鹿児島まで、55日間歩いて日本縦断
※2020/2～3 地球についてのお話をさせていただく。21カ所 延べ2663名
- 2018/7 **団体名をMAKE HAPPYに名称変更（前 MAKE THE HEAVEN）**
- 2020/1 **理事長交代 川島孝一が辞任し谷口保が就任**
※組織改編し部門制を取り入れ、植林/間伐部門、災害復興支援部門とする
- 2020/1 **オーストラリア森林火災の視察/支援**
- 2020/5 **医療用簡易ガウン製作開始**
- 2020/7 **間伐拠点を兵庫県丹波市の「シェアビレッジ」に設ける**

活動実績まとめ

植林/間伐部門 2021/12時点

〈植林プロジェクト〉中国内モンゴル/ブラジル/南アフリカ/宮城/和歌山/熊本/北海道
ツアー開催 39回 / 参加者 延べ 3,451名 / 植林本数 556,321本
〈間伐プロジェクト〉富士周辺/熊本/奈良/静岡/宮城/和歌山/兵庫/広島/岡山/鳥取
【森】イベント15回/参加者 延べ662名 【製作】イベント9回/参加者98名

災害復興支援部門 2021/12時点

宮城（2011）フィリピン（2014）広島（2014）熊本地震（2016）岡山（2018）
千葉（2019）長野（2019）熊本豪雨（2020）佐賀（2021）で災害支援
ボランティア参加 延べ33,604名

植林間伐部門
WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL
- 植林プロジェクト -

活動概況

今、地球上では温暖化が進行し降雨量が減少するだけでなく、干ばつが続いたり、局地的な豪雨や豪雪、高温による災害など、気候変動が原因と考えられる現象を目の当たりにするようになりました。

これからは、人々が照いあつたり奪いあつたりするのではなく、心一つにして力を合わせる時だと思えます。当部門では、「緑」と「希望」が溢れる地球を未来の子供達に届けるために、国境、年齢、性別、人種を超え、みんなで力を合わせ、地球に一本でも多くの木を増やす活動、一本でも多くの自然林を守る活動、そして、環境を意識して行動する人を増やす活動をしています。



未来の子供たちに当たり前に雨が降る地球を残したいという想いと、人と人・人と地球・全てが繋がりが一つになり、世界中の人たちと一緒に喜び創造できるキッカケを作りたいという想いから植林活動をしています。

2005年に第1回中国内モンゴル植林ツアーを開催し、2008年には「WONDERFUL WORLD 植林FESTIVAL(以下ワンフェス)」と名付け、世界中に活動を広げました。これまでに、中国内モンゴルの沙漠を中心にブラジル・南アフリカ・和歌山・熊本・北海道・宮城などで、現地の方やツアー参加者さんと一緒に植林を行っています。

植林間伐部門代表 植林プロジェクトリーダー かごしマン(谷口)

【参加者】延べ3451名【植樹本数】552,849本(2021年現在)

中国内モンゴル植林

これまで毎年2回、中国内モンゴルの植林ツアーを実施していましたが、2020年からは新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響でツアーを中止いたしました。2021年も、沙漠の緑化活動をコロナ禍においても止めずに継続したいという想いから、ツアー開催時に実施してきたmy tree企画を4月と10月に実施しました。

中国内モンゴルの沙漠に緑を増やしたい私たちと、地球に緑を増やしたいという方々から支援を頂き、内モンゴルの現地の農家の方々に仕事として植林をしてもらうことで、「三方よし」となる『あなたの木を沙漠に植えるmy tree』を実施し、木を植えることが出来ました。

2022年も海外植林ツアーにつきましても先が見えない状況ではありますが、日本に滞在しながらでも出来ることを考えていきます。

※my treeの応援で5月に3000本のポプラと沙枣を植林(2021年のマイツリーも含む)

※この中国植林は「(公社)国土緑化推進機構」の「緑の募金」から一部支援をいただいています。



あなた木を沙漠に植える「my tree」プロジェクト



沙漠に植林してみたいけれど、「ツアーへの参加は難しい」「今回はどうしても行けない!」という方々へ、日本にいながら一緒に緑を増やせる企画『my tree』を継続的に実施しています。

【支援人数】236名【植林本数】3,708本
これまでのマイツリー←参加者: 延べ2,235名(昨年より99名増) 植林本数: 約34,700本←

東北植林プロジェクト「希望の森もり大作戦～東北植林編～」



2011年10月、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏が『瓦礫を使った森の防潮堤プロジェクト』を打ち出しました。ワンフェスはこのプロジェクトに感銘し、2012年1月から「希望の森もり大作戦～東北植林編～」として活動スタートしました。

現在では、宮城県内の植樹に置いて苗木の提供をしていましたが、復興が進むにつれて森の防潮堤の需要が少なくなり、防潮堤だけでなく防災を兼ねた緑化と寄り添いの活動にシフトしております。

宮城県石巻市では、津波により1700世帯が流された南浜地区で地域と連携して活動をしております。2018年より国・県・市・市民でつくる『南浜津波復興記念公園』内に育苗拠点を置き、宮城県内で拾った種を育てています。震災伝承と緑化活動を、県内21の団体・国・宮城県・石巻市で作る『参加型運営協議会』に所属し地域の方々の協力のもと植林を実施しています。

2021年は参加者の制限は設けたものの、植樹祭を実施することができました。また、10月には、『第8回希望の森もり植林ツアーin石巻』を実施し、23名の参加者と417本の木を植えることができました。

育苗施設では、被災された方を含むスタッフ4名で32種類、約16,000本の育苗を継続しています。春には苗木の急速な成長とともに育つ草をとり、夏には毎日のように水かけを行い、冬にはハウスに苗木を移動し苗木の手入れを行っています。

さらに、心の復興の後押しする目的で、植物との触れ合いや人が集い話することで、ココロを前向きにし、笑顔が増えることを目的として、植替え会や堆肥作り体験会などのイベントを実施しています。

2021年はコロナ禍の中でしたが、8月に植物観察会と種拾い・10月に苗木と花の植替え会・12月にキムチづくり体験会を実施しました。また、通年を通じて育苗のボランティアの参加を受け入れました。公園内の植樹は、企業や団体を受け入れ、準備や育苗指導を行うと同時に、当団体の苗木を今年だけで4,065本提供することが出来ました。

*この育苗の活動は、石巻市「こころの復興助成金」から一部助成いただいています



一元募金～一元玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～

2008年から実施している活動の一つとして、日本で一番小さな単位のお金である『一元玉』を集めています。一元募金を通して「一人ひとりの力は微力でも決して無力ではない」「みんな力を合わせれば、大きな力に変わる」ということを伝えています。

【2021年までの累計】1037人の一元を集める仲間で9,656,383円の募金を預かる

植林間伐部門
WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL
- 間伐プロジェクト -

活動概況

日本の森の現状/問題と、私たちが考える解決方法

日本の森は弱っています。理由は、人間の手によって植えられた木々の手入れ不足です。現在、国土の1/4にあたる1000万haが弱った森とも言われるなか、林業従事者は減る一方(※1)で、国産檜の素材価格は1/4まで下落(※2)し、林業の主な収入源である“樹木の伐倒”により生計を立てることが難しくなっています。

1000万haという人工林の広さを考えると、林業家だけでなく、私たち一般人も加わり森の整備をする必要があると感じ、“暮らしの中での林業”という新たなスタイルを広めています。その一つとして私たちは、子供から大人まで参加できる「きらめ樹間伐」という皮を剥くことで間伐する方法を実践しています。

【※1】1980年14.6万人→2015年4.5万人 総務省「国勢調査」【※2】1980年76,400円→2018年18,400円 林野庁「令和2年度 森林・林業白書」

2021年活動実績 【森作り】イベント9回/参加者 170名 【製作】イベント9回/参加者98名



プロジェクトリーダー挨拶

こんにちは。私は、2年前から森に入り出し、森の楽しみ所や森が抱える問題点を、自らの体感としてお伝えし、企画として立ち上げています。

その中でわかったことは、自然の「循環」に従うことの大事さです。森から疎遠になってしまった現代、そんな感覚をベースに持つことで、社会が抱えるたくさんの問題も解決の糸口が見えると信じています。

是非、みなさんも一緒に、森に入りませんか？

間伐プロジェクトリーダー にしけん (西本)

プロジェクトとして大事にしていること

当プロジェクトが大事にしていることは「森作り」「仕事作り」「周知」です。これに基づきながら参加者の皆さんに森を体感していただき、森作りの大切さと、ノウハウを学んでいただいています。

森作り

土中環境をふまえた上での、間伐&植林を施し、元気で豊かな森を作ります。

仕事作り

自分たちで木を伐り倒すこと、また木工技術を継承することで、その土地の木材が、仕事として回る仕組み作りをします。このような資金面での循環は、長期的な森作りに繋がります。

周知

日本全国に、森作りの大切さとノウハウを伝えます。森に関わるイベントを開催し、各地にみなさんが入れる森の拠点を作ります。

① 森作り

日本の森が弱ってきている理由は、戦後に植えられた木々たちが成長し、密集しすぎて森の中に光が入らないからです。光は木の養分の一つです。光を浴びられない木々たちは、細いまささらに高く成長しようとするので、ひよろ長く、根の張らない不安定な森となります。そこに台風などの、たくさんの水や風がやってくると、斜面ごと崩落し、土砂災害の原因となります。

それを解決するためには、「間伐」といって、木を間引いてあげることが必要です。本来の林業であればチェーンソーなどを用いて木を伐り倒すのですが、私たちは木の皮を剥くことで、枯らし、葉っぱを落とすことで光を森へ入れる「きらめ樹間伐」を取り入れています。

2021年は、兵庫県丹波市のシェアビレッジの森を中心に、各地へ出向き、たくさんの方々に伝え、間伐を行いました。また、関西を中心に、数年前に皮を剥かれ乾燥したきらめ樹の伐倒も行いました。

きらめ樹イベント ◆参加者 約170名 ◆イベント開催地域 兵庫/岡山/広島/長崎 (講師としての参加も含む)

きらめ樹の伐採 ◆人工林の間伐 1ha 約140本 兵庫/京都



台風で倒れた木々たち



レッツ！きらめ樹～！



岡山キャンプ / 総勢44名で森へ



各地の森できらめ樹の伐採

② 仕事作り

皮むきを行った木々たちは、約2年をかけて、森の中で立ったまま自然に乾燥が進みます。その後、伐採を行い、その木材を使った様々な木工に挑戦をしています。きらめ樹丸太の「スマホスタンド」の製作販売や、南米発祥の打楽器「カホン」の製作ワークショップなども行いました。

中でも一番大きな製作として、現在「きらめ樹ツリーハウス」の建築を行っています。このプロジェクトは、2021年4月にクラウドファンディングという方法を用いて、全国27都道府県283名の方々から出資を受け、405万円が集まることにより実現したプロジェクトです。

大事にしたのは、業者による建築ではなく、製作講座という形で木工初心者の方々と共に、一年をかけて建築をする部分です。現職の大工さんを講師に迎えることで、日本古来からの木工技術の伝承が行われています。男女問わず、また小学生の子どもも受講しているという幅広さもこの講座の特徴です。

きらめ樹間伐カホン製作ワークショップ ◆4/6、7/22開催 合計7名

ツリーハウス製作 ◆製作講座 参加者 13名 ◆6～12月毎月開催



子供も一緒にきらめ樹カホン製作



ツリーハウスのデッキまで完成



製作講座のみなさんの笑顔



土台をノミで削る

③ 周知

みなさんにも、身近で森を体感して欲しいという思いから、各地で森の活動をしている団体を紹介する「行きつけの森構想」をはじめました。みなさんのお気に入りの森を見つけてませんか？。他にも、森の魅力を様々な角度から伝えるために、お話し会や、お食事会、森の撮影なども行っています。

行きつけの森構想
◆毎週 金丹波水上町・シェアビレッジの森
◆毎月 第3土 枚方穂谷・独歩ファームさんの畑&森 (7～11月に参加)
◆毎月 第4土 丹波篠山・ユートピア篠山山里エリア (7、9、10、12月に参加)



「杉の雨粒」

災害支援復興部門 め組JAPAN

活動概況



災害に遭うと日常や思い出も全てを失い、希望が持てなくなってしまった方が沢山います。被災者さんと共に過ごす事で、共に汗を流す事で、お話を聞く事で笑顔になったり、やる気になったりと希望が生まれていく光景を沢山みてきました。私たちの活動を通し、生きる希望を届け、この地球に笑顔の花を咲かせる活動を行い、被災された方たちが1日でも早く日常に戻るため、非常時に頑張る方たちのチカラに少しでもなるために、出会う一人ひとりに寄り添う事を大切に活動を行なって参ります。この約10年間、10ヶ所での災害支援を通し、沢山の経験を積み重ね、沢山の専門的な知識を学びました。その知識と経験を活かし被災者の不安と負担を小さくし、笑顔と未来に繋げる活動を行なっています。

災害復興支援部門 代表 ババラ（今井） 【参加者】延べ 33,604名 / 2021年度総受益者数 2,973名

令和3年8月豪雨災害「佐賀県大町町支援」

■2021年8月18日～継続中■

活動人数

ボランティア受け入れ 延べ 55名 / スタッフ活動人数 延べ 115名

支援対象者数

活動件数 19件 完了件数 14件 / 支援先対象者人数 延べ 128名

主な活動

「家屋保全のための技術系支援」

壁や床剥がしや消毒、床下に溜まった水の排水、ダクトファンによる乾燥等

「被災者見守り支援」

被災者のお宅を訪問し、状況を把握しながら困りごとの対応を行いました

Episode

この2年で二度目の水害となり、前回の災害から、リフォームや建て替えが終わって間もない被災者も多く、経済的にも負担が重なる状況となりました。

修繕に掛かる費用を1円でも抑えられるよう、カビの発生を抑えながら、壁材や床材をギリギリまで残せる方法を、今までの知識と技術を最大限に活かし作業を行いました。



令和2年7月豪雨災害「熊本県人吉支援」

■2020年7月7日～継続中■

活動人数

ボランティア受け入れ 延べ 1369名 / スタッフ活動人数 延べ 511名

支援対象者数

活動件数 66件 / 完了件数 65件 / 支援先対象者人数 延べ 1317名

主な活動

「家屋保全のための技術系支援」

壁や床を剥がし洗浄消毒を行う事で、お家をカビから守るだけでなく、リフォームにかかる費用を抑える事ができます。被災者の経済的負担と精神的不安を減らし、被災者の生活再建をサポートしています。

「地域コミュニティ再建のためのサポート」

地域住民が被災したことで仮設住宅などに移り、地域のつながりも絶たれてしまいました。地域コミュニティの復興のために、公民館の運営のサポートや、住民が集えるきっかけ作りとして、夏休みの宿題教室やかき氷の振る舞いなど催し物の企画や運営を行いました。

Episode

災害から1年が経った現在も、支援活動が続いており、この災害の大きさを改めて実感しています。被災者が安心して生活していくために、私たちは「家屋保全活動」と「地域コミュニティの再生活動」の2つの角度から活動を行いました。1軒1軒のお宅を、被災者がほんの少しでも安心してもらえるようにと、丁寧に作業を行ってきた事で信頼が生まれました。

信頼が生まれた事で、被災者から地域への不安の声が聞こえ地域のサポートを行うことを決めました。地域再生のサポートを行う事で、被災者の安心につながり、地域に帰ってくるきっかけになればと考え地域コミュニティの再生活動を行いました。



コロナ禍での医療用ガウン製作支援

■2020年4月～継続中■

NPO法人チーム・ユニコンさんと共に東京や川崎などでコロナ感染対策医療用簡易ガウン製作会を開催し、出来上がった医療用ガウンを医療や福祉で働く皆様にお届けしています。



ボランティア参加者さんの声

球磨郡在住 千葉富美子

人吉・球磨のために何かできないか・・・そう思って参加した災害支援ボランティアの活動でした。め組さんと一緒に活動させてもらうようになって、いろいろなことを教えていただきました。中でも、被災者さんに寄り添うとはどういうことなのか、改めて考える場面が多かったです。め組さんとの活動は、被災した家が私たちの手で生まれ変わったときの感激や、被災者さんがだんだんと明るい表情になられる喜びなど、小さな希望であふれています。私はとっても人見知りですけど、人とつながって素晴らしいなって思えます。もはや誰かのためではなくなっています。私自身のために活動させてもらっています。

人吉市在住 石工榎太郎（小学校5年生）

余りボランティアには、参加できていなかったけど色々、学んだこともいっぱいあった大切な仲間もたくさんくれたのでとてもたのしかったです。そして家をいっぱいキレイにできたのでとても楽しかったボランティア活動だったのでとてもスッキリしました。